

オーソドックスな川遊び

「今年のはどうじゃるか？」昭和大桥の上から鮎の遡上を観察する人。通りがかった人が車から降りてきて一緒に川を覗き込む。あつという間に5、6人の調査隊ができていく。鮎の遡上時期に見られる風景がここにもある。

その昭和大桥のすぐ上（かみ）の河原にふるさと交流センターがある。芝生が敷き詰められたキャンプ場は広々としているが、夏休みやゴールデンウィークともなるとテントがひしめくほど立ち並ぶ。



ここは、水道やシャワー室などの設備が整っていることや、川の流れが比較的緩やかなことなどが、家族連れには人気なのだ。泳ぐのはもちろん、カヌーで遊んだり、また、上流の三島からラフティングをしたりと、オーソドックスな川遊びが手軽に楽しめることも、リピーターが多い理由である。

取材中、愛媛県から来たという若者が一人釣り糸を垂れていた。「この辺が気に入って、月に一度位来ています。ここでこうやってしていると、何となく落ち着くんですよ」と語ってくれた。

この若者のように、癒されるために人知れずここに来て来る人って結構たくさんいるらしい。

旧昭和村の「首都」

昭和の町は国道沿いにある。保育園、小学校、中学校、診療所、福祉施設、郵便局、役場の出張所、公民館、数件の商店や工場など、生活の要が1kmほどの距離の中にまとまっていて、旧昭和村の「首都」だったという雰囲気は今も感じられる。



国鉄土佐昭和駅

さて、ここ昭和には他府県の人（特に都会の人）に人気の看板がある。

以前新聞でも話題になったことがあるその看板は、「国鉄土佐昭和駅」

それは国道から昭和駅に入るところにある。（お隣の十川にも「国鉄十川駅」、大正にも「国鉄大正駅」があります）



知ってるようで
知らない私たちの町 ③

昭和

川遊び盛んな旧昭和村の「首都」

